特定外来生物　ナガエツルノゲイトウ
見分け方資料

ナガエツルノゲイトウ
分　類：ヒユ科 ツルノゲイトウ属
原産地：南アメリカ

画像提供：小出 可能

兵庫県自然鳥獣共生課　078-362-3389

花・花柄

- 小さな花が集まった球状
- 花の色は白色
- 直径 1.2 cm～ 1.6 cm
- 開花時期は 4 ～ 10 月
  （1 年中開花することもある）
- 種子はできない

- 花柄は長い
- 葉の脇から伸びる
- 長さ 1 ～ 4 cm程

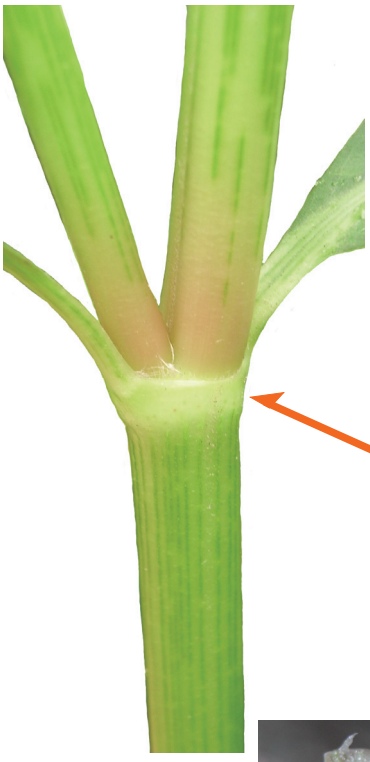
実物大

葉

- 葉先がやや尖る
- 主脈が目立つ
- 葉の縁はとても細かくギザギザ
  （ほとんど目に見えない）
- 長さ 2.5 ～ 5 cm
  幅　0.7 ～ 2 cm

とても細かい毛のようなギザギザ（鋸歯）

茎・節



- 表面は滑らかでツルツルしている
- 茎は柔らかく、中は空洞（乾燥地では茎の中が詰まって見えることがある）
- 日当たりの悪い場所に生育していると茎の色が赤みを帯びることがある

- 節のすぐ上には白くて短い毛が生えている
- 節はポキポキとすぐ折れる
- 茎（節）の切れはしから根や葉を出して再生、増殖する

←空洞を確認する際は、茎を指でつまみ、茎の弾力で判断（柔らかい）

※拡散防止のため
茎を切って確認しない

変異

- ナガエツルノゲイトウは、生育環境によって姿に変異があり、別種のように見えることがある。
- 葉の形や色が違っていても花や花柄、葉の付き方は変わらない。

↓肥沃な場所に生育し、葉が丸みを帯びたもの

画像：兵庫県外来生物対策協議会

花・葉・茎の画像提供：小出 可能

兵庫県自然鳥獣共生課　078-362-3389

茎と根・再生能力

・茎は横に這いながら枝分かれし、根を出す
・中は空洞で、水に浮く
・茎が切れても茎の節から根と芽を出し、生きることができる
・根は 1m の深さになることがあり、直径 2mm 以上であればどこからでも芽を出すことができる
・放置してしまうと約 40 日で倍増

種子はできないが、
茎・根で増殖する

↑小さな茎の切れはし
このサイズでも、水辺や土のある場所にポイ捨てしてしまうと、そこから根付くことができる。

→節ごとに切れたナガエツルノゲイトウ
節ごとに切れて水流に乗り、流れついた先で根付き、分布を拡大していく。

画像提供：エコロジー研究所

刈り払いやすき込みをすると、小さな破片をまき散らすことになり、爆発的な繁殖の原因となってしまいます！

根元の茎・根・切れはしの画像提供：小出 可能

兵庫県自然鳥獣共生課　078-362-3389

生育場所

・池沼、河川、水路、水田、湿った畑地などに生育

・乾燥に非常に強く、陸上でも生育可能

・主に淡水に生育するが、耐塩性が強いので河口域（汽水域）や海浜にも生育可能

貯水池のゲートに掛かった状況

水利施設に押し寄せた状況

給水栓周りに繁茂した状況

草刈り焼却跡に繁茂した状況

水田に侵入した状況

目地から再生した状況

画像提供：エコロジー研究所

兵庫県自然鳥獣共生課　078-362-3389

ナガエツルノゲイトウに似ている植物（その1）

水辺に生育するナガエツルノゲイトウはアメリカタカサブロウ、タカサブロウと似ているが、葉や花の形、茎の質感等で見分ける。

ナガエツルノゲイトウ（ヒユ科）	アメリカタカサブロウ（キク科）	タカサブロウ（キク科）
開花時期 4 ～ 10 月	開花時期 9 ～ 10 月	開花時期 8 ～ 9 月
花柄がある・白い花		
花の形は球状	花の形は頭状	
茎の表面は滑らかでツルツルしている 種子は作らない	 茎や葉に剛毛が生えていてザラザラしている 種子を作る ←アメリカタカサブロウの種子	

画像提供：小出 可能

兵庫県自然鳥獣共生課　078-362-3389

ナガエツルノゲイトウに似ている植物（その2）

陸上に生育するナガエツルノゲイトウはスベリヒユとよく似ているが、花柄の有無や花の色、葉の付き方で見分ける。

ナガエツルノゲイトウ（ヒユ科）

スベリヒユ（ヒユ科）

開花時期 4 ～ 10 月

ナガエツルノゲイトウの幼植物

開花時期 7 ～ 9 月

茎は赤みがかっている

白い花	黄色い花
葉の先はやや尖る 1 つの節から1対の葉が出る（対生） （上から見ると「十字」に見える）	葉は肉厚で、先は丸い 茎から 1 枚ずつ葉が出る（互生） （上から見ると「らせん階段」に見える）

花・幼植物・スベリヒユの画像提供：小出 可能

兵庫県自然鳥獣共生課　078-362-3389